

## 年末手当を 考える①

## 社員の実態・声を直視し、 社員・家族の安心を!

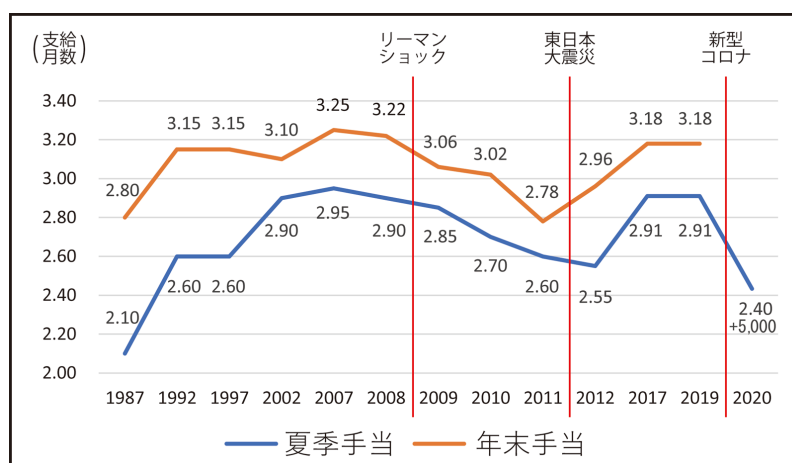
**10月16日、国労東日本本部は「2020年年末手当・基準内賃金×2.6カ月+5万円」の要求を提出しました。**

夏季手当では、新型コロナウイルス感染症拡大の大打撃を受け、昨年2.91カ月から今年2.415カ月相当(2.4カ月+5,000円)対前年比▲0.495カ月へと過去にない大幅な減少となりました。

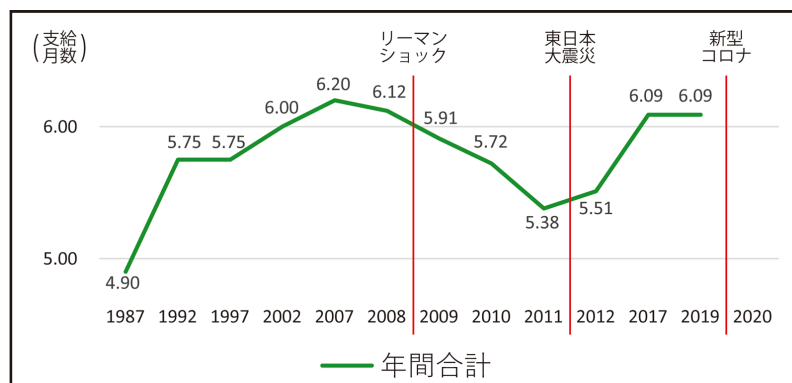
職場では、「収入ダウンやお客さまの減少」を痛いほど実感していますが、夏季手当の際には、

**「こんなに下がったの!!」**  
**「住宅ローンの支払いが大変だ」**  
**「年末手当はどうなるのかなぁ~?」**

との嘆きや不満の声が渦巻きました。



[ JR東日本夏季手当・年末手当の推移 ]



[ JR東日本手当・年間合計の推移 ]

国労が毎年実施している「賃金・生活実態アンケート」では、毎月の赤字額は「40,232円」、赤字の補填は「①年末手当47.3%、②預貯金46.5%」と、年末手当へのウェイトが高いことが示されています。

まもなく、年末交渉が始まります。

コロナ禍と向き合いながら、日々の安全・安定輸送の確保に懸命に努めている社員と家族の期待にいかに応えるかが求められています。

**会社は**

消費税増税10%による家計への負担、住宅や車のローン、子供の教育費、親の介護等、趣味や家族サービス等

**社員の生活実態を直視した決断を!**